

なっちゃん靴

作 はしもと
橋本 なおみ
奈緒美

わたしは、なっちゃんの靴です。

わたしとなっちゃんは、お出かけするときはいつも一緒。わたしは、なっちゃんとお出かけするのが大好きです。

ある日、雨が上がってなっちゃんと歩いていたときのこと。

「なっちゃん、水たまりに気をつけてね。」

わたしは、なっちゃんの顔を見上げて言いました。すると、空に虹がかかっているのが見えました。

「わあ、なっちゃん、見て見て。綺麗な虹だよ。」

しかし、なっちゃんからの返事はありません。わたしは不安になって、なっちゃんに聞きました。

「なっちゃん、どうしたの？」

しばらく経ってから、なっちゃんはわたしを見つめながら言いました。

「…靴が汚れちゃったら嫌だなあ。」

「なっちゃん、心配してくれてありがとう。わたしは汚れても大丈夫。

さあ、元気を出して。今日はどこへ行こうか？」

水たまりには、澄んだ青空と綺麗な虹、そして軽快に歩き出したなっちゃんの笑顔が映っていて、キラキラととても眩しく見えました。